

2020年11月8日(日)9:00～

参加者 中井、長谷川、濱田、浅井、佐野、生田

①6年H学級「やまなし」実践記録

問題「『ついていってみよう』の目的は何か」について考えた授業記録から

○子どもの発言の良さ、価値に教師が気づいているか。論理的に話している子の意見を取り上げて整理したり、広げたりしていくことが大切。司会的な役割だけではいけない。

○意見を端的に話すことを教えていきたい。長く話すとついて来られない子が増える。

○意見が停滞するのは発問が悪い場合や、思考がついてきていない子が多い場合。教師はそれに気づいて、手を打てるように。全員参加させるために選択させる場面を作るなど。

○はじめに「変だ、おかしい」という疑問を持ち、追求しようとする意欲があっても、それを持続させるのは難しい。追求過程で刺激(文中の証拠、友だちの意見、新しい問題など)が必要

②4年S学級 詩「クロツグミ」

パッと見ただけではわからないけれど、じっくり考えると謎が解けて、はじめに持っていたイメージが変わるという経験ができれば…

はじめでの追求方式の授業で子どもたちがどう出るかわからないが、全員が参加できたり、言葉の意味を証拠にして読みのイメージが変わることを楽しんでることをねらいたい。

「こいしい」「おや」「しゃべる」の意味が重要。